

営農経営座談会を開きました



JA筑紫は2月16日まで、管内69カ所で平成30年度営農経営座談会を行いました。

座談会は、組合員に対し次年度の農政や普通作、園芸振興などについて、各行政担当者と共に説明。組合員とJAの意見交換の場として、相互の報告から今後の検討課題を考えます。

筑紫野市城山・倉良々地区の座談会には、組合員、行政担当者、JA職員など19名が参加。昨年のお米生育状況や、今年のお米作付けに向けた肥料・農薬の使用方法などを説明し、農作業事故防止を呼び掛けました。

また、JAは自己改革として行った農業所得の増大や農業生産の拡大などに関する取り組みを報告。JAの自己改革の内容を記した独自のリーフレット「農協改革とJA筑紫 自己改革の実践」を配付し、座談会の資料と共に説明しました。

JA筑紫・JA筑前あさくら枝肉合同勉強会



JA筑紫肥育牛部会とJA筑前あさくら肥育牛部会は、2月8日に、太宰府市都府楼南のJA全農ミートフーズで、第8回JA筑紫・JA筑前あさくら肥育牛部会合同枝肉勉強会を開きました。勉強会は、2JA間の生産者の交流を図ると共に、お互いの肥育技術の向上を目的として毎年開いています。

今回は、黒毛和種12頭が出品され、関係者らは専用冷蔵庫内で各枝肉の色ツヤやサシの具合などを真剣に確認。生産者は、関係者を交え、勉強会の結果について熱心に意見交換を行いました。

表彰式では、JA筑紫の(有)三宅牧場が博多和牛の部で、最優秀賞を受賞。出品した枝肉は、質量592.6kgで、肉質等級はA5、脂肪交雑(BMS)はナンバー11でした。

受賞した三宅さん夫婦は、「愛情込めて育てた牛が受賞して良かった。これからも頑張っていきたい」と笑顔で話していました。

ゆめ畑野菜栽培講習会を開きました



J A筑紫は2月16日と19日に、大野城・太宰府・筑紫野・那珂川の4地区でゆめ畑野菜栽培講習会を開き、J A農産物直売所ゆめ畑の出荷者141名が参加しました。

J A営農生活部農業振興課の山本幸彦園芸指導士が講師を務め、気象状況や農作物の現状の他、今後の管理について説明。3月下旬にオープンする、ゆめ畑春日店への出荷も呼びかけました。

講習会は、組合員の農業所得の向上を目的に、年2回J Aが開いています。直売所利用者へ安定的な野菜供給を行うため、組合員に時期に応じた栽培方法について伝えます。春夏・秋冬ごとの講習会の他に圃場の巡回をするなど、出荷量増加にもつなげています。

麦 圃場で生育を確認



J A筑紫麦出荷者部会は2月16日から6日間、麦追肥状況と圃場（ほじょう）管理状況を確認巡回しました。管理徹底による高品質麦の生産を目指し、全ての圃場を対象に行いました。16日は、部会役員と、J A営農生活部農産課職員が筑紫野市内を巡回し、各圃場に立てている、使用済みの肥料袋を目印に追肥状況を入念に確認。播種以降、低温が続いたことで生育はやや遅れていますが、徹底した管理と、2月中旬からの日照時間がプラスとなり、生育は順調に回復しています。

部会役員は「これからも部会員の生産意識向上を図り、誇りを持って出荷できる麦づくりに励んでいきたいです」と話していました。

窓口対応・セールスロールプレイング大会を開きました



J A筑紫は2月26日に、本店で平成29年度窓口対応・セールスロールプレイング大会を開きました。金融店舗窓口職員の接客対応の技術向上を目的に毎年開き、入組1年目の職員が出演。審査員には、J A福岡信連やJ A職員らが参加し、身だしなみや、商品の内容をお客様に分かりやすく伝えているかなどを基準に審査を行いました。

職員は手作りのデモブックなどを使って、緊張しながらも日頃の成果を存分に発揮。推進課の八尋正樹課長は「緊張したと思いますが、全体的に好印象。親しまれる窓口を目指して、日頃の対応にいかしてほしいです」と話しました。